



カタショー・ワンラボのワークスペースで仕事をする参加者

市内のテレワーク環境を体験

■ワーケーション体験ツアー

市では10月、市内のテレワーク環境や市の魅力を知ってもらおうと「ワーケーション体験ツアー」を2回開催し、首都圏在住の企業関係者や会社員などが参加しました。

カタショー・ワンラボ内のワークスペースでのテレワークや静波サーフスタジアムでの波乗り、市内各所を巡るバスツアーなどを体験した参加者からは「仕事をしつつ、牧之原で過ごすイメージがついた」「東京よりも遊びと仕事とのバランスがとりやすい」などの感想が聞かれました。

ライフジャケットの大切さを伝えたい

■静岡市の釣り具メーカーから絵本寄贈

10月6日、静岡市の釣り具メーカー株式会社ジャクソンから、絵本『かっぱのふうちゃん ライフジャケットでスイスイ』20冊が寄贈されました。

これは市内在住の釣り愛好家、鈴木小百合さんの「子どもたちにライフジャケットを着用して安全に遊んでもらいたい」という思いに同社が賛同したものです。同社の井熊亮さんは「この絵本を読んで、子どもから保護者に『ライフジャケットを着たい』と自ら言えるようになってほしい」と話し、橋本教育長に絵本を手渡しました。



橋本教育長(左)に絵本を手渡す井熊さん(中央)と鈴木さん(右)

日頃の健康づくりの推進などで連携

■株式会社杏林堂薬局と包括連携協定を締結

市と株式会社杏林堂薬局は10月17日、「地域の健康づくり及び大規模災害対応に向けた相互連携に関する包括連携協定」を締結しました。本協定により、両者が平時からの連携を強化することで、災害時にも迅速な連携対応が可能となります。

同社の小河路直孝社長は「地域住民の健康づくりに力を入れ、健康寿命の延伸に責任をもって対応したい」と話しました。杉本市長は「災害時の備えとしても日頃の健康づくりは重要。官民連携により市民の安心安全も高まる」と話しました。



製茶工場内を見学する児童

製茶の過程を五感で学ぶ

■牧之原小学校 校外学習

牧之原小学校3年生26人が10月7日、株式会社高柳製茶の製茶工場を見学しました。この校外学習は、地元で生産される「静岡牧之原茶」に親しみを感じてもらおうと実施されたもので、児童は実際に工場内を回って「製茶のできるまで」を学びました。当日の朝に仕入れたばかりの荒茶（製品前の段階まで加工されたお茶）を機械で種別に分類したり混ぜ合わせたりするなど、パッケージ製品になるまでの一連の作業を学んだ児童からは、驚きの声が上がりました。



表彰を受けるS.Labのユージン・トリミンCTO(右から2人目)

最も地域を発展させるプランは

■チャレンジビジネスコンテスト表彰式

市の産業・観光の活性化と、スタートアップ支援・企業誘致を併せて実現することを目的とした「牧之原市チャレンジビジネスコンテスト(まきチャレ)」の表彰式が10月28日、相良総合センターい〜らで開催されました。

本市の「産業資源」「観光資源」を活用し、自らの事業を地域と共に発展させるビジネスプランを6～7月に募集したところ、国内外から91社がエントリー。書類審査などを通過したファイナリスト10社がオンラインでのプレゼン審査に臨み、表彰式で各賞が発表されました。大賞には、茶の木とキノコの菌糸を組み合わせた新しい梱包材を提案した「S.Lab」(ウクライナ)が選ばれました。

本番での活躍を誓う

■ねんりんピック出場・出品者が市長を訪問

10月3日、「ねんりんピックかながわ2022」の静岡県選手団・美術展出品者として本市から選出された13人のうち12人が杉本市長のもとを訪れ、杉本市長から激励を受けました。

選手団を代表して、バウンドテニス出場選手である加茂川勲さんが「一勝でも多く勝利を重ねたい」と抱負を語りました。

ねんりんピックは、60歳以上を中心としたスポーツと文化の交流大会です。本年は神奈川県で11月12日から15日まで開催されました。



本番に向けて気勢を上げる出場者ら



捕獲したカメと触れ合う参加者

身近にどんなカメがいるのかな

■萩間川のカメ調査イベント

10月1日、萩間川のカメを捕獲して調査するイベントが開催され、親子連れなど29人が参加しました。これは、身近にどんなカメが暮らしているのかを調べ、その生態や現状を知り、自分たちにできることを考えようと企画されたものです。

参加者は、萩間川で実際に捕獲体験を行った後、市史料館に移動し、捕獲したカメやカニなどの生き物と触れ合いました。また、市内の淡水ガメの現状や外来種のアカミミガメに関する講話を聞き、カメの生態や現状について学びました。

ズームイン!
カシャ!!



広報担当がどこにでも取材に行きます。
あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎030040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp